

遺跡の位置と立地

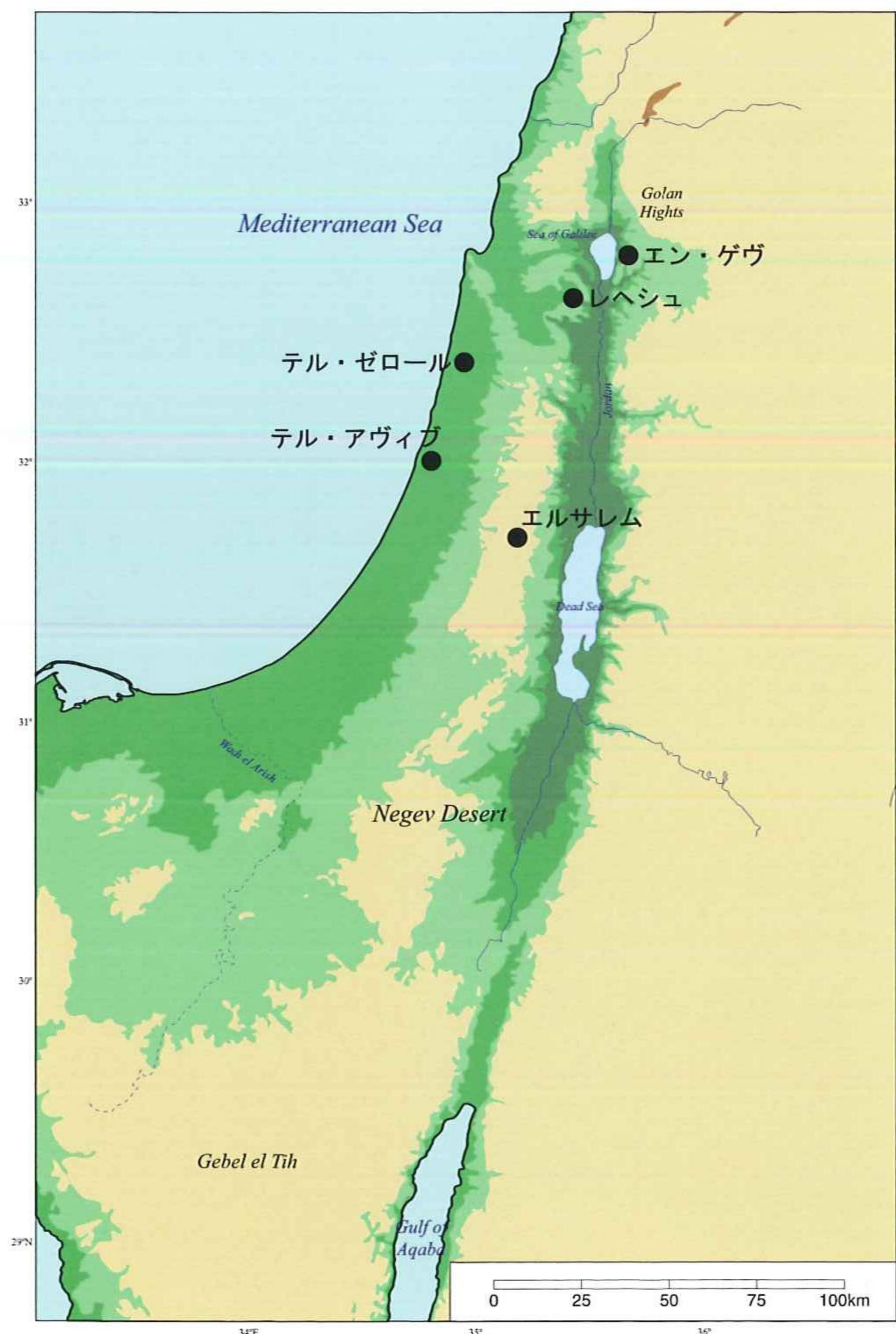
テル・レヘシュ遺跡はイスラエル北部、ガリラヤ地方のなかでも南東地域にある。地中海からは約 50km 内陸に入り、東側のヨルダン地峡からは約 9km 西になる。ヨルダン地峡と地中海側をつなぐ交通路であるエズレル平原からは北東に約 2km にある。聖書に見られるタボル山の南約 9km、近くの主要都市であるアフラから東南へ約 13km 離れる。谷地形のやや奥まった位置にあり、主要な交通路からはやや離れる。旧約聖書にみられるイッサカルの地に含まれる。

タボール山付近から流れてくるタボル川と遺跡東側の低い丘陵から流れてくるレヘシュ川が遺跡の西で合流し、東の峡谷を通過してヨルダン川へと流れていく。遺跡はこうした川(ワジ)に囲まれており、東側のみ低い尾根と繋がっている。

遺跡の周囲は発掘された顕著な遺跡は少ない。北約 6km には前期青銅器時代の都市遺跡であるテル・キシオン遺跡がある。また、遺跡の北西約 200m にはタボル川を利用したとみられるダム状の施設があるが、構築された時期は不明である。遺跡地図によればタボル川沿いにローマ時代の遺物が散布する場所がいくつかあるが、顕著な遺構はない。現在、遺跡の周囲は斜面は荒地であるが、平坦地には小麦や果樹などの農耕地となっており、全体として自然公園に指定されている(山内)。

この遺跡は、聖書地理学的に、ヨシュア記 19 章 19 節に言及されるイッサカル部族の主要都市アナハラトと同定されてきた。旧約聖書には、アナハラトという地名の言及はこの 1 箇所にとどまるが、エジプトのファラオ・トトモシス 3 世(前 1479-1458 頃)およびアメンヘテプ 2 世(前 1427-1400 頃)の遠征碑文に言及されるカナン都市国家のひとつであった。また、最近では、粘土書板の胎土研究にもとづき、これまで発信地が不明であった 3 点のアマルナ書簡(EA 237-239)はテル・レヘシュから発信された可能性が指摘されている。

遺跡は、これまで全く発掘調査が行われておらず、日本隊による発掘調査プロジェクトに内外から期待と関心が寄せられている(月本)。



イスラエルの地形図とテル・レヘシュの位置